

技術教育に携わってきた知見を活かして 当社の優れた技術を成長につなげる提言を続けてまいります。



社外取締役 古田 勝久

これまで社外取締役を2期務めさせていただきました。私は今まで企業での経験はなく、制御工学に基づいた機械制御、ロボット制御などの研究教育、大学の運営管理に携わってきましたが、就任当初から社外取締役に対する議事の事前説明や、国内外の工場見学を実施していただいたり、ガバナンスに関するe-learningや講習会を受講するなどしてソディックの業務や技術、経営全般への理解が格段に進んだと実感しています。また、毎回の取締役会では、担当取締役から業務執行の報告を受けるとともに、子会社を含む企業集団全体の内部統制の状況や監査報告などもあり、企業理解の進度に合わせてステークホルダーに対する企業としての健全性、透明性を意識して助言する場面も増え、取締役会の議論の充実にも多少なりとも貢献できるようになったと考えています。

そのなかで私は現在、人事および報酬に関する諮問委員会の委員を担当しています。現在の取締役会の構成メンバーは、多様性に富んだ素晴らしい人材で構成されていますが、今後は後継者育成計画の策定に向けても審議を進めていただくよう後押ししていくつもりです。また、報酬諮問委員会では取締役の職務執行能力や、前年度の経営内容と業務への貢献度などを勘案して報酬案を審議し、決定していますが、昨年度は目標とする利益に達することができず、代表取締役以下の執行役を担う取締役の報酬を削減することとなりました。

このように社外取締役として与えられた職務を着実に遂行するとともに、私の専門領域である技術面での助言も積極的に行っていきたいと考えています。ICTの目覚ましい発展により、社会や技術の大きな変化に対応できない企業は淘汰される時代です。そうした観点から、私はソディックが時代の柱として育成している金属3Dプリンタに期待しており、その技術をもっと多くの潜在顧客に積極的にアピールしてはどうかと提言してきました。その結果、チャンネル (Sodick Additive) が動画サイトに立ち上がりました。これによって、新しく開発された機種である「LPM325」の利便性がこれまでの一部の技術者だけでなく多くの技術者に伝わるのではないかと考えています。これは一部の例ですが、ソディックにはほかにも優れた技術、製品は数多くあります。これからは会社が用意した場だけでなく、技術開発の担当者とも気軽に情報交換するとともに、技術の活用方法や情報発信の仕方、用途展開や新たな事業計画づくりなどを取締役会の議論を活かしていきたいと考えています。

略歴	経歴
1970年6月	東京工業大学工学部助教授
1982年10月	同大学工学部教授
1997年3月	米国 カリフォルニア大学バークレイ校 客員教授
1998年9月	フィンランド ヘルシンキ工科大学 (現アールト大学) 名誉博士
2000年4月	東京工業大学名誉教授
2000年4月	東京電機大学理工学部教授
2004年7月	学校法人東京電機大学理事
2007年4月	東京電機大学未来科学部教授
2008年6月	同大学学長
2014年4月	学校法人東京電機大学参与
2016年4月	同法人学事顧問
2016年6月	当社社外取締役 (現)

サステナビリティを基軸とした 健全なガバナンスの実践に貢献してまいります。



社外取締役 野波 健蔵

私は2013年に小型無人航空機 (ドローン) の製造会社である (株) 自律制御システム研究所 (ACSL) を大学発ベンチャーとして創業し、2018年には東証マザーズに上場、2019年まで会社経営を担いました。その間の2016年4月には、第三者割当増資を行った楽天 (株) と東京大学エッジキャピタル (UTEC) から社外取締役各1名に経営に参画いただきました。当時は社外取締役=大株主というわかりやすい図式で、スタートアップのお目付け役的存在ながら、上場時のキャピタルゲインを上げるという明確な目的がありました。一方で、私はベンチャーキャピタル (VC) 派遣とは異なる、経営全般にわたる助言役も必要と考え、そのミッションや役割を考え続けていました。当時の社外取締役を採用する立場から、今回は私自身が社外取締役に就任することになりました。

私がソディックに求められているのは、VC派遣と一般の社外取締役の両方の役割責任を知り、かつ後者の立場からこれまで考えてきたことを実践することと考えています。

言うまでもなく社外取締役は「企業統治を強化するための重要な役職」です。最高意思決定機関である取締役会に参加し、客観的・専門的な立場、あるいは経験的知見から経営に助言をします。その際に重要なのが独立性で、とりわけ法令順守、企業の社会的責任、リスク管理の適正化などにおいては、株主の代表として経営者との利害を一致させ、企業価値向上をめざすことが求められています。一方で社外取締役は、事業に直接かかわっていないために適切な助言がどこまでできるかという問題がありますが、ACSLの取締役会では、そうした外部視点を持つがゆえに、同じ業界・企業に長らくいることのリスク、すなわち近視眼的な視野に陥り、業界の常識が社会の非常識になるという事態に対しても的確な助言を頂戴することができました。社外取締役の価値はこの点にあると思います。

ソディックは、創業者である古川利彦氏が数々の困難を乗り越えて放電加工機で世界のトップ企業になり、さらに射出成形機、マシニングセンタ、リニアモータ、金属3Dプリンタ、食品機械と事業を拡大し続けています。その業容拡大のなかでの私の使命は、創業者の熱い思いを原点とし、その魂をいかに現代の会社経営の仕組みや従業員のモチベーションに結びつけていかにあります。企業と社会のサステナビリティを基軸とした健全な成長プロセスのガバナンスを担うという自覚のもと、精一杯努力し続けてまいります。

略歴	経歴
1979年3月	東京都立大学工学博士
1985年2月	米航空宇宙局 (NASA) 研究員
1988年4月	米航空宇宙局 (NASA) シニア研究員
1988年12月	千葉大学助教授
1994年4月	同大学教授
2008年4月	同大学理事・副学長 (研究担当)
2012年10月	ミニサーバイヤーコンソーシアム (現一般社団法人日本ドローンコンソーシアム) 会長 (現)
2013年11月	株式会社自律制御システム研究所 代表取締役最高経営責任者 (CEO)
2014年4月	千葉大学名誉教授 (現)
2018年9月	株式会社自律制御システム研究所 取締役会長
2019年6月	一般財団法人先端ロボティクス財団理事長 (現)
2020年3月	当社社外取締役 (現)